

2022年1月刊行

特色

本体価格

同時1アクセス 12、320円
同時3アクセス 24、640円

読者対象

仏教学・仏教史・日本史・東洋史・国語史・
国文学・民俗学を専攻される学生・研究者。
仏教に深い関心をもたれる社会人及び団体。

法藏館の好評辞典「紙版」

総合佛教大辞典

鎌田茂雄 他編
櫻部 建

全3巻セット
五四、五九〇円

日本仏教人名辞典

柏原祐泉 他編
菫田香融

二五、〇〇〇円

仏教音楽辞典

天納傳中・岩田宗一編
播磨照浩・飛鳥寛榮

CD付
二五、〇〇〇円

密教大辞典

縮刷版 密教学会編

二五、七五〇円

密教辞典

佐和隆研・松長有慶・宮坂有勝 他編

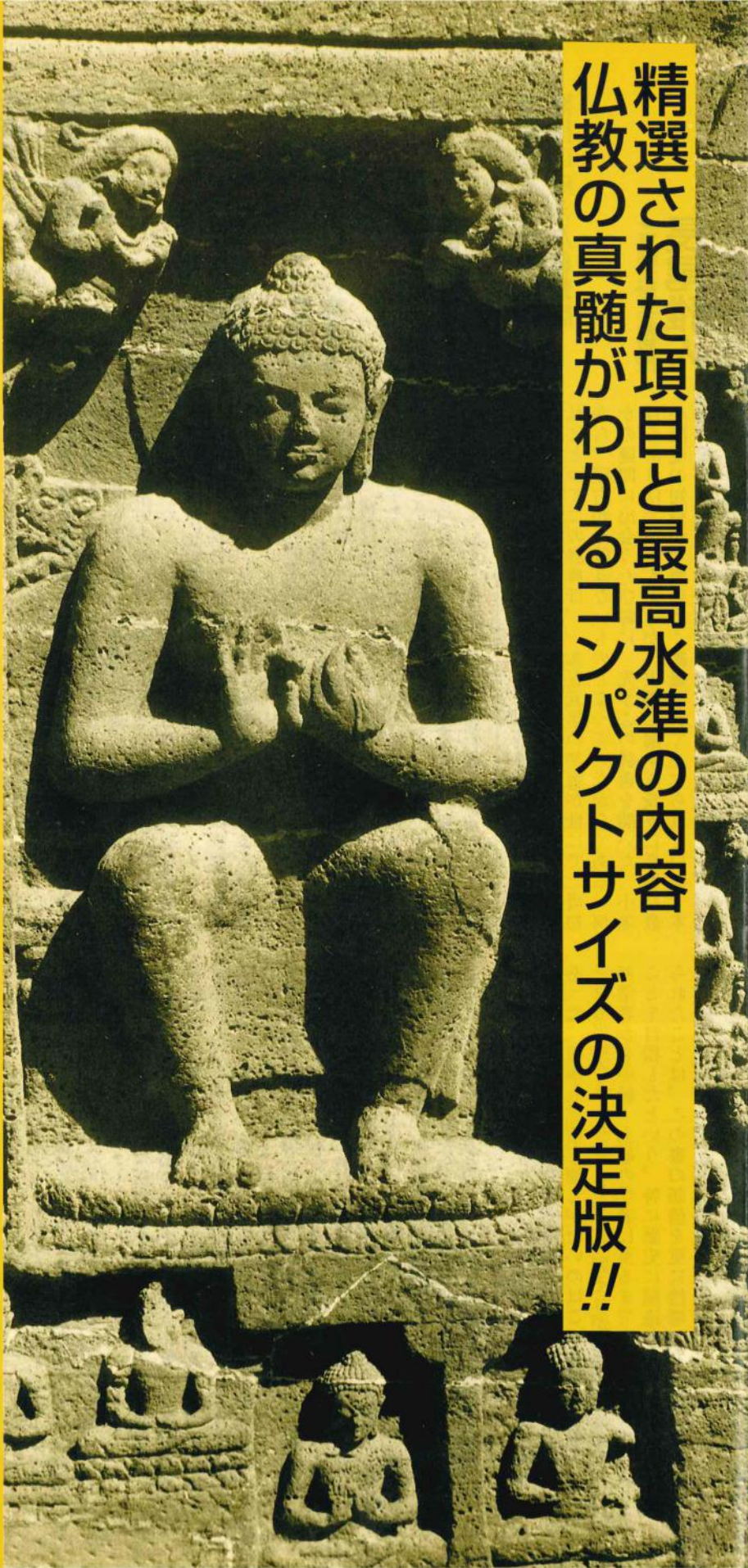
九、八〇〇円

真宗新辞典

大原性実・星野元豊・金子大榮 監

一九、〇〇〇円

精選された項目と最高水準の内容
仏教の真髓がわかるコンパクトサイズの決定版!!



【編者】多屋頼俊・横超慧日・舟橋一哉 【刊行の辞】藤田宏達

【推薦】鎌田茂雄・築島 裕・長尾雅人・宮田 登

電子版

新版 仏教学辞典

法藏館

●精選された約二七〇〇の項目

難解な仏教を解明する必要不可欠な項目が精選され、総項目数約二七〇〇が収録されています。

●便利な中小項目主義

項目はなるべく集約して関連項目に一括し、仏教の思想・文化を体系的・総合的に把握できるように工夫しました。

●使いやすいコンパクトサイズ

机上にさわりなく常備でき、また通学時の携帯にも便利なコンパクト版です。

●索引は和文と欧文の二種類

一万三千余項目を採録した索引によって、見出し語以外の術語でも容易に検索することができます。和文索引は難読語のために冠字画引を掲げ検索の便をはかりました。また今回は新たに欧文索引が加わり、サンスクリット語・パリーリ語・チベット語からの検索も可能となりました。

法藏館

〒600 京都市下京区正面烏丸東入
TEL 075(253)3555 FAX 075(253)0455
振替 0070-317433



電子版『新版 仏教学辞典』
ProductID : KP00055421

Kinodenは、紀伊國屋書店がご提供する学術和書電子図書館サービスです。読みやすいビューア、未購入タイトルも含めた全文検索、試し読み・リクエスト機能など、長年の経験を活かし「本当に使われる電子図書館」をご提供致します。



推薦のことは (五十音順)

歴史の解説が加わり 一層の充実

●愛知学院大学教授 鎌田茂雄

最新の研究成果を取入れ 広範な研究の要に応える

●中央大学教授 築島裕

初版からの愛用者の 期待に応えた新装版

●京都大学名誉教授 長尾雅人

法蔵館の『佛教学辞典』は、平明簡易な解説とともに、高い学問的水準を備えた良質のコンパクト版として、長きにわたり定評を得てきた。これがこのたび新字体・新活字に改められ、さらに歴史学的解説などを加えて、新版として上梓せられた。充実した術語数、高度な専門性を含むという特長は失われることなく、加えて現代の読者とくに学生層に親しまれ、また今日の学際的研究に応えることができるように、きめ細かい改訂がなされている。本辞典が幅広く活用され、仏教研究の新たな発展に寄与することを念願してやまない。(本文「刊行の辞」より)

旧版『佛教学辞典』は、当時の大谷大学が誇る仏教学の専門家の総力を結集して編集されたもので、仏教学の研究成果を吸収し集大成した最高の辞典でありました。しかし、旧漢字が用いられたり、活字も小さいために読みにくい面がありました。この度、新しく刊行された『新版佛教学辞典』は全面的に旧版を改定したものであります。私は中国仏教史の執筆のために、多くの仏教辞典を利用しており、仏教史に関する歴史学的解説のある辞典は

法蔵館版『佛教学辞典』は、中型の一冊本ながら、充実した内容を備え、権威ある辞典として、初心者から専門家までの広い階層にわたって、大いに活用され、学界の定評を得て来た。唯、刊行以来、既に四十年を経て、当時は一般的であった旧漢字や、凝縮した組版など、今日の一般の読者にとっては、いささか馴染みにくい点が生じたことも、否定できないことであった。今般、漢字を新字体に改め、組版を改善して読み易くし、装いを新たに、世に問われることになっ

『佛教学辞典』が新たな装いを以て再版せられると聞いて、まことに喜ばしく、欣快の至りに堪えない。というのも、私にとつてこの辞典は、一九五五年の初版が世にでた当初から、座右から離せないものとなっていたからである。何かの疑問に出会うたび毎に、先ずこの辞典を開いた。小項目もあれば大項目もあるが、主題に関する我々に必要な最小限の知識が、要領よく網羅されて述べられている。本書の著者は何れも大谷大学で親しくおつき合いをしていた

仏教民俗研究にも 大いに活用したい

●神奈川大学教授 宮田登

日本の民俗宗教は、神と仏の習合現象を基本としている。これも永い間にわたる神仏習合の結果であり、現代の私たちの日常生活や儀礼の中に、仏教的要素は深く滲透している、なかなかその原型はつかみにくくなっている。民俗学的立場からの仏教研究は、仏教学の厳密な成果を吸収してはじめて、本格化できるのであり、そのためには十分に信頼できるテキストを必要とする。旧版『佛教学辞典』はその条件を兼ね備えた評価の高い

ものとして知られていたが、このたびの新版は、その後公刊された『総合佛教学大辞典』の新字体を加味させて、一層読者の便宜をはかるべく編集されている。とくにこれから仏教民俗の領域に取組もうとする若い世代の研究者たちが、手軽に利用できることは何よりも有難いことである。本書の新たな活用により、民俗学的立場からの民俗宗教論が更に強化されることは必定であり、ここに本書を広く江湖に勧めたい。

り歩くこと。寒詣は寒夜に社寺に参詣して祈念すること。一日・三日・七日・二日・三日などの日数を限り、裸・跣で、あるいは白衣をわずかにまとって寒さたたかいつつ護摩を焚き、水垢離(みづぬが)をとり、あるいは御百度をふむなどの行をして、自己の身を苦しめて神仏に祈願する。 **かんぎょ** 願行 ねがいと実践。仏になるには願と行とが両立しなければならぬ。浄土教では、浄土に生まれるための願と行とが兼ねそなわることを行行具足というが、その解釈は宗派によって異なる。 **かんぎょ** 願業 願い求めること。業は業欲(ごう)の意。 **かんぎょ** 願進(ねがひ) **かんげ** 動化(どうげ) 含華未出(くわんげ) 仏智の不思議を疑う者は、極楽に生まれも蓮華が開かず、花の中に包まれて浄土の風光を見るということができないことをいう(善導の觀經疏定善義)。 **かんじけつ** 乾屎(かんじけつ) くそかきべら。禅宗で、臨濟録などに仏を遠く求める執情を打破してさとりを開かせるために、仏とは何かという問いに対して不浄を拭うべからと示している。

かんじやらしゅ 干闥羅樹 干闥羅は閩カンチャカ kancara の音写。インドのベంగాル地方にある植物。 **かんじゅ** 貫首(かんじゅ) 貫主・管主とも書く。郷の戸籍、本籍をいひ、首ははじめの意であるから、転じて一門一職の頭を指すこととなり、僧職においては天台座主を貫首というようになった。今日では広く本山諸大寺の住職に対して敬称として用いられている。 **かんじゅうる** 甘珠爾(丹珠爾) 甘珠爾はチベット語カンギル Bkañ-gyur の音写。仏の教訓の意味。チベット大蔵經中の律および經の部門をいう。丹珠爾はチベット語テンギル Bstan-gyur の音写。 **かんじょう** 勧請(かんじょう) 勧め請うの意。仏陀がさとりを開いた時、その教えを万人に説きひろめるように梵天に勧請したことを、梵天勧請といひ、また入滅に際してはもつと長くこの世に留まるように諸弟子が仏陀に勧請している。日本では仏・神の靈または形像を寺や社に新たに迎えて奉安することをも勧請といひ、法要のとき所定の文を誦して仏・菩薩の靈を式場に請い移す意味にも用いる。

かんじょう 灌頂(かんじょう) 阿比シエーチャナ abhishecana(阿鼻詮左)あるいはアビシエーカ abhisheka(阿毘世迦)の訳。水を頭頂にそそぐこと。密教では法を伝えたり、仏縁を結ばせるための作法として重んじ、古代インドでは即位式や立太子礼において、国王となるべき人の頂に四大海水をそそぐ即位灌頂の儀式が行われたが、大乘仏教では、これを菩薩が修行の最終階位で仏となるべき資格を得るのになぞらえ、法王の職位をうけて諸仏の智水がその頂にそそがれると、如来の五智を象徴する水を行者の頂にそそぐ儀式が行われるに至り、中国・日本にも伝わって、日本では延暦二四年(805)最澄が高尾山寺で初めて行った。東寺では承和一〇年(845)実慧が勅許を得て、灌頂院で春秋二季に伝法・結縁の両灌頂を行い、同一三年からは秋季のみとなった。延暦寺では嘉祥二年(850)一説に仁寿元年(850)仁仁が鎮護国家のために灌頂を修し、例年朝廷から灌頂料を給された。高野山では応徳三年(858)から東寺に準じて修し、康和三年(1012)から春秋二季に行われた。長治元年(1018)尊勝寺で結縁灌頂が勅修され、東密と台密とが奉仕したが、永久元年(1019)の宣旨で天台兩流にかざられたので、寛助が奏請して東寺の秋季灌頂を朝儀とした。保延五年(1035)仁和寺で春季灌頂を修し、恒例となった。これらは勅儀としての灌頂の例であるが、その他各

歴史学的解説

別称を表記

紀伊國屋書店

デジタル情報営業部 TEL:03-6910-0518 FAX:03-6420-1359 〒153-8504 東京都目黒区下目黒 3-7-10 取扱店 ict_ebook@kinokuniya.co.jp

